



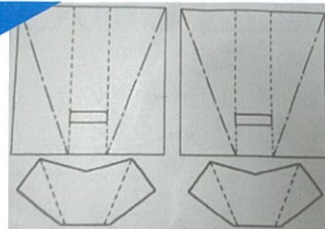
KAGAYAKU

かがやく

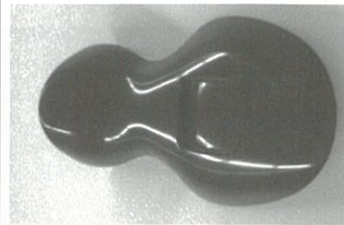
題字: 木版
西野一男さん

43

生涯学習情報紙: 生きがい探しのパートナー
感動人生! ここに生きる元気な人間ひと



▲紙の鼻笛



▲プラスチックの鼻笛



▲缶の鼻笛



▲溶け合う笛の音



▲どれもお手製の鼻笛



▲「ハナミズキ」のみなさん

■鼻笛サークル「ハナミズキ」(中央公民館) はなやぐ心を奏でます

中央公民館 11号室。扉の外で耳をそばだてると、オカリナのような、草笛のような、胸の底をくすぐる懐かしい音が聞こえてきました。

茶本典明(ちまのり)さんを代表とする鼻笛サークル「ハナミズキ」の皆さんは、月2回火曜日に、こうして練習に励んでいます。

『彩の国いきがいがい大学入間学園8期生7班』で、学園祭の出し物に鼻笛を選んだのが、そもその始まりです。その後、部活動として練習を重ね、昨春、卒業を目前に鼻笛サークルを立ち上げ、『ハナミズキ』としての活動が始まりました。現在、会員は、男性7人女性6人の13人。中央公民館で和気あいあいと練習しています。

なぜ鼻笛を選んだのですか？

「鼻笛は、楽譜を読めなくても、歌さえ歌えれば楽しく演奏できるんです。やっている人が少ないのも魅力です。他人と違うことをやってやるじゃないかっていう気概です。」

どんな練習をしていますか？

「まずは、基礎練習です。音域を広げたいので、唱歌『ふるさと』を低い音から半音ずつ上げて、1オクターブ以上高いところまで繰り返し吹き

ます。ラクそうに見えますが最後の方は、体がぼかぼかしてきます。その後、ポップスから水戸黄門まで、いろいろな曲を全員で吹きます。」

埼玉には、モスリンさんというプロの鼻笛奏者の方がいらして、その音域は、驚きの4オクターブとか。みんなでもスリンさんの演奏を聴き、目標にしているそうです。

鼻笛という楽器は、普段メンバーが使っているプラスチック製のものの他に、粘土製、木製、竹製と様々あり、それぞれに音色が違います。厚紙にハサミを入れて作る簡単な鼻笛も、イベントでは大人気でした。指導者の野田進さんは、演奏だけでなく製作も楽しむツワモノで、様々な作品を見せてくださいました。

鼻から息を吹き込み、口の大きさで音程を変えられる鼻笛は、気軽に始められ、気軽に持ち歩けるのが魅力。でも一番の魅力は、みんなで心を合わせて演奏すること。「仲間は多ければ多いほど嬉しい。」茶本さんの言葉がキラリとかがやきます。

11月16日、産業文化センターで行われる入間学園文化祭にて演奏予定の『ハナミズキ』の皆さん。心をひとつに練習に励んでいます。





■劇団鳥獣戯画 知念ユニコさん
ミュージカルもコントーションも

市制施行50周年を記念して、ドラマフェスタ市民ミュージカル『ダンシングいるま商店街』が披露されたのは今年3月のこと。子どもから大人まで、総勢100人ほどの市民が参加したこのステージは、まるで夜空に打ち上げられた大きな花火のよう。見事なものでした。

役者として、振り付け師として、この大舞台を支え、盛り上げた知念ユニコさん24才。入間市に引越してきた小5の時には、既にいくつもの舞台を踏んでいました。初舞台は3才。オモチャに釣られて、出演オファーにOKしたこともあるとか。幼い頃のほえましいエピソードです。

小3で、子どもミュージカル劇団『にこつとちや茶』に入団すると、毎週、歌とバレエと芝居の稽古をする生活が始まりました。今では感動のダンスを見せてくれるユニコさんですが、当時はまだ、踊りが好きとか稽古が好きという意識は無かったそうで



▲『ダンシングいるま商店街』



▲コントーション

す。ところが、中学生になり、稽古の大切さに目覚めてからは、「稽古する↓成果が出る↓楽しくなる↓だからまた稽古する」というサイクルにはまり込み、とことん筋力を鍛え、キレ味抜群のダンスを修得。そして、高校を卒業すると単身フランスに渡り、今度は柔軟性をとことん追求。小学生の時に『シルク・ド・ソレイユ』を見てからずっと憧れていた軟体芸『コントーション』のレッスンに励みました。

「コントーションは、視覚的に技術の高さが解り易いので、芝居の中に取り入れ、観客を惹きつけるキッカケとしても生かしてゆきたいです。」

現在『劇団鳥獣戯画』の一員として東奔西走の日々。12月からは市民ミュージカルの稽古も始まるそうです。

「年齢も経験も全然違う人たちが一緒になって作り上げてゆく市民ミュージカルが大好きです。」とユニコさん。次の舞台でもまた、市民のかがやきを、めいっぱい引き出してくれることでしょう。

■子ども日舞 舞妓人形(久保稲荷公民館)
美しい舞を見てください

日本舞踊は好きですか。日本には様々な踊りがありますが、これは舞台上で上演することを目的とした舞台芸術です。日本舞踊が大好きな子ども達が集まり、実際にお稽古をしているサークルがあると聞いて、久保稲荷公民館を訪ねました。

1組の親子が学童保育を利用して、いた時、送り迎えの市民ボランティアをしてきた現在の講師の川藤舞之城さんと意気投合し、徐々に仲間が増え「子ども日舞舞妓人形」が発足しました。出会いから17年。長いお付き合いになっていきます。

稽古日の子どもの送迎、練習用の浴衣作り、舞台の飾り付けなど全て保護者の協力の下、本気の二人三脚で成り立っています。

お母さん、お父さんたちの熱意に応え、先生も稽古の折には着物の着付けから礼儀作法全般、お茶の入れ方、出し方や座布団の出し方、畳の上の歩き方などの所作全てを教えてくださいます。



▲『さくらさくら』の稽古中

着物や浴衣を持つていなくても参加が可能なで、お稽古を積んでいくうちに小学生でも一人で着物や浴衣を着られるようになるそうです。

「日本の文化を身につけて、4年後のオリンピックで日本にお越しただざる海外の方々へのおもてなしや異文化交流のお役に立てたいなと思います。」と川藤先生が語ってくれました。

小学校低学年は『さくらさくら』、高学年は『花扇』、中学生もそれぞれ年齢に応じた曲目を楽しそうに舞っていました。今は11月の久保稲荷公民館祭に向け、一生懸命練習中です。美しい舞を見て、日本っていいなと感じました。



▲先生との舞



▶礼儀作法も学びます





■ フラワーアレンジメント 薮塚理恵子さん
四季折々のお花を楽しんでいます

藤沢公民館の2階、工作室に入る
と、甘い香りの美しいお花が出迎えて
くれます。

今日は、フラワーアレンジメントの稽
古日。月二回の教室を楽しみにしてい
る生徒さんたちは、先生(薮塚さん)の
指導を待っています。この日の花材は
カラー・バラ・カーネーション・デルフィ
ニウム・レザーフアン。出来上がりが楽
しみです。

薮塚さんはお花が好きで好きでフ
ラワーアレンジメントの講習会に参加
したのがきっかけで、続けているうち
にさらに楽しくなり、指導者の資格ま
で得ました。

フラワーアレンジメントの起源は遙
か昔のヨーロッパ。紀元前二千年頃
には原型があったそうです。花や葉を整
えて配列させて生ける。つまり、西洋



▲楽しみながら生けています



▲完成した作品



▲真剣な眼差しで...

風の生け花です。日本の生け花にも、
型や基本があるように、アレンジも国
によってそれぞれ特徴があります。今
では、日本のフラワーデザインとして
進歩してきました。

気軽に、肩のこらない生け方が人気
を呼んで小学生から大人まで幅広い
年齢層に親しまれています。

クリスマスやお正月、お誕生日会な
ど、季節や行事に合わせてお花を生け
られるのが魅力です。

この教室の生徒さんの一人から今ま
での作品の写真を見せていただきまし
たが、どの作品も見事な出来栄えで
す。今日のお花もカラーの白さが一際
目立つ素敵な作品でした。

「お花が好きな方は、毎年4月に開
催される市フラワーデザイン展にお越
しください。」と薮塚さん。彼女は市内
の5つの教室で現在活躍中です。

■ 入間市グラウンドゴルフ協会(黒須市民運動場)
だれでも、気軽にグラウンドゴルフ

「お、ホールインワン!」「あー惜し
い!」と黒須市民運動場から楽しそ
うな声が聞こえてきました。どこで
も誰でも出来るのが特徴のグラウ
ンドゴルフをみんなで楽しく行っ
ている団体をご紹介します。

入間市グラウンドゴルフ協会は日
本グラウンドゴルフ協会に所属して
いる由緒あるサークルです。平成17
年、28人で発足し、現在は部員83人
の大所帯。最年長の87才の女性を筆
頭に月4回の練習日が待ち遠しく
て...と、平均年齢76才の会員は皆
さん元気で生き生きとスポーツを楽
しんでいます。

グラウンドゴルフは専用のクラブ、
ボール、ホールポストなどを使用し
て、ゴルフのようにボールをクラブで
打ちますが、ボールが空中を飛ぶこ
とはありません。また、プレーヤーの
目的に合わせて運動場や庭など自
由にコースを設定することが出来ま
す。



▲ボールとホールポスト



▲ホールインワンを狙います



▲自分自身が審判員

指導者の佐藤健さんは、このスポ
ーツは「エチケットのスポーツなん
です。」とおっしゃいます。その理由は打
ったボールがゴールに入るまで何回
打ったかを自己申告。つまり自分自
身が審判員なのです。その為、サーク
ルのモットーは「明るく・正しく・仲
良く」を掲げています。

埼玉県のグラウンドゴルフ人口は
全国2位なのだそう。ずつと1
位だった埼玉県ですが、今回惜しく
も鹿児島県に首位の座を奪われて
しまいました。

団体参加の選手も輩出し、市内外
の団体に指導員として招かれる方
も13人ほど在籍しています。

「性別・年齢・体力に関係なくあく
まで個人で楽しめませよ。」と佐藤
さんお薦めのスポーツです。



「みんなが主役 楽しく 楽しく」

■ いるま塾の会（市民活動センター）
 長年の子育てや仕事を終えたら、みなさんはどのような生活を送ろうとお考えですか。いま高齢化が進む中で、家族構成が大きく変化しています。『日々の生活を楽しく過ごしたい！』と思っ

具体的にどんなことをしているか、左の図をご覧ください。7つの項目に合った年間活動予定を立てます。そして実施内容を毎月発行の『いるま塾の会』かわらばんに掲載しています。会の十周年記念の交流会は、バス組と徒歩組に分かれて休暇村奥武蔵で合流。その後、食事会・カラオケ・ゲーム等を楽しみ1泊しました。

会の代表者は昆野功さんです。会の構成は男性7人、女性6人の合計13人です。会の発足は平成16年1月。『市民のためのまちづくり・仲間づくり講座』終了後に卒業生の有志が立ち上げました。生き方の学びあいのなかで【みんなが主役 楽しく 楽しく】をモットーに地域活動をしています。

一見どこにもありそうなサークル活動ですが、長年続いているのは、一人ひとりの個性を尊重した信頼関係があるからです。やむを得ず遠方に引越された方も、SNSを利用して、句会参加や泊りがけでの交流会に参加しています。

生き方の学びあい

“いるまなびと” 大作戦

第22回 いるま生涯学習フェスティバル

今年も新たな「学び」と「出会い」をご用意して、皆様をお待ちしています。会場には様々な作戦が…。楽しい催し物にはご注意ください！

- ◆日時：平成28年12月4日(日) 午前9時45分～午後3時45分
- ◆場所：入間市産業文化センター・児童センター 他
- ◆主催：入間市・入間市教育委員会・(公財)入間市振興公社
入間市生涯学習をすすめる市民の会
- ◆主管：第22回いるま生涯学習フェスティバル実行委員会



● 編集後記 ●

○春・夏・秋・冬 四季に恵まれた日本！どの季節もそれぞれに風情があつて楽しい事が出来る。こんな素晴らしい国は、他にありませんか？ (HT)

○「編集後記」からお読みの方へ一言。人生の感動や驚きが詰まっています。ディープな記事を楽しんでください。(SK)

○桜色から若葉の緑、夏空の青さに驚いたら、また秋がやってきた。大好きな季節。(TE)

○気象異常のこの半年、編集委員になつていなければ、この猛暑に挑み、取材活動など元気に乗り越えられなかった自身。目標を持ち、挑戦することの大切さを今さらながら再認識しました。(KH)

○目を閉じて、小鳥や虫の声を聞いていると、心が休まり、生きていく喜びが見えてくるんです。(NT)

いるまなびとサイト オープン！
<http://irumanabito.net/>
 「あなたも わたしも いるまなびと」を合言葉に、皆さんの学びを応援します。サイトには、各種の学び情報が満載！市内の生涯学習情報を無料でお届けする「いるまなびと登録」も、ぜひご利用を！
 いるまなびと
 入間市生涯学習をすすめる市民の会

企画編集：「かがやく」編集委員会
 発行：入間市教育委員会生涯学習課

お問い合わせ 連絡先
 入間市教育委員会生涯学習課
 〒358-8511 入間市豊岡1-16-1
 TEL 04-2964-1111(内線4124) FAX 04-2964-4841

この発行物は「かがやく」として出されます。